

# 神学校週間によせて

2020年6月28日 [日] ~ 7月5日 [日]

## 「今」、神学の学びをまなましよう

日本バプテテスト連盟常務理事 中田 義直

今年も「神学校週間」を迎えます。例年とは異なる状況の中にあつて、神学校献金の推進、奨学金の運営を担い、神学生の学びを支えてくださっている全国壮年会連合の働きに改めて感謝いたします。

私たちは「今」、教会は世にある、ということを感じながら過ごしているのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症が感染拡大する中、各個教会はそれぞれに悩み、祈りつつ決断を行ってきました。協議を重ね明確な意志を持って決断したこともあれば、まさに「世の波」に飲まれるように判断を迫られて決断したこともあるでしょう。

歴史の中で、疫病は社会に大きな変化をもたらしてきました。疫病は宗教にも問いを投げかけ、例えば、中世のキリスト教会は大きな影響を受けたといわれています。教会が託されている「宣教」の働きは、世に向かって「福音」を伝えることといえるでしょう。世に生きる者に届く言葉で福音を語ることが求められ、時には、世の波に抗ってでも語るべきことを語ることが求められるでしょう。

神学の学びは、聖書と向き合うとともに、世と向き合い、歴史と向き合いつつ宣教の「言葉」を求めていくことと私は理解しています。

コロナ禍にあつて、教会に伝道所、そして、そこに集うお一人ひとりも大変な状況の中にあることでしょうか。その労苦を思いつつも、「今」この時に献身の思いを持って神学校で学ぶ神学生が、「世」と向き合いつつ神学を学び、「神学する」という大切な課題に取り組むことが出来るよう支えていきたいと願っています。共に神学校の働きと神学生の学びを祈りに覚え、捧げ、支えて参りましょう。



## ◎神学生の証し◎

### 何度でも、神の言葉の前に



原田 賢  
西南学院大学大学院博士前期課程2年  
(大宮教会推薦)

最終学年となりました。長くもあり、あつという間でもあります。この間、私と出会い、共に歩んでくださった皆さまに、心から感謝いたします。長い間、西南学院大学神学部では、批判的に物事を考えることが大切にされてきました。私も、この批判と、それを土台とした「対話」の重要性を学んできたように思います。

批判は、他者の言葉や考えを単に否定することではなく、その意図や目的をしっかりと理解することを前提とします。その上で、相手を論破するためではなく、共に取り組むために問うのです。そこでは自分の考えを口に出すよりも、聴くことが先行します。そして、聴いて終わりではなく、そこに自分の言葉を重ねる。そうして対話が生まれます。

誰かと対話すること。これはなかなかしんどいことです。何より、聖書を通じて、神と対話をする。これが本当に根気と忍耐が要ります。気が付いたら、自分の神学で神の偶像を作り上げ、その偶像に気持ちの良いことを語らせたいくなるのです。

この偶像を砕くために、私は対話する者でなければなりません。それはしんどいことでもありますが、同時に嬉しいことでもあります。聖書の中で、度々「あなたはどうか思うか？」と問う主イエスと出会います。それは、世界の命たちを、この私たちを対話へと招いてくださっているのではないのでしょうか。その招きの中でこそ、私もまた対話する者になれるのです。この神との対話へと招かれて、何度でも、神の言葉の前に立ち、対話する者でありたい。そう願っています。



◎西南学院大学・「実践神学概論」のWeb授業

### 神さまのみ手の中で



清水 智子  
東京バプテテスト神学校専攻科3年  
(洋光台教会推薦)

神学校の働き、神学生の学びを覚えての祈りお支えを感謝いたします。コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、新年度の授業は、全員ネットでの受講となり、先生方はご自宅など遠隔地から講義をしてくださいます。遠方の方々ともお顔を会わせお話を聞くことができ、学びと共に主に在る仲間とのつながりを体験しています。

私は、現在専攻科の3年生です。神学校の本科を2010年3月に卒業し、それから8年間のブランクを経て、信徒伝道者として献身の思いが与えられ、より良き準備と訓練をいただくため専攻科に入学いたしました。教会で、平日の「子育て支援伝道プログラム」の担当をはじめ13年、地域のお子さん30余名と求道者である親御さんを、神さまが教会に託してください、主の愛を伝える場と深い思いを与えてくださいました。

専攻科に入学してからは、「神さま、私はここにいて大丈夫でしょうか？」と問う状態が2年近く続きました。ところが、ある授業の中で「霊性」という言葉に出会い、「霊性の神学」に出会うと、私の前にある霧が徐々に晴れていったのです。私の目的は、「神を知る」こと。「Knowing God」であり、神学校で学ぶ「神について知る」ことは、目的の道へと通じるものとして論じられたのです。三位一体の神との親しい交わりを、生活の全領域で持つこそ、力まざる主の十字架の出来事と復活の「証人」となれます。

「わたしは世の終わりで、いつもあなたがたと共にいる」(マタ28・20)。コロナウイルス感染の収束を祈りつつ。



◎東京バプ・神学特講「新約釈義」Web授業

### 献身への導きに感謝



河野 正成  
九州バプテテスト神学校専攻科1年  
(佐賀新生教会推薦)

九州バプテテスト神学校の学びを決意したのは4年前、定年を迎えて63歳になってからでした。開拓当初から46年間牧会を続けてこられた牧師が高齢により健康不安が表面化し将来の牧会が続けられないという現実が見えてきたからでした。これまで私たちにみ言葉を宣べ伝えてくださった働きと、救いに与らせていただいた幸いと喜びに心から感謝しています。

そのような時、牧師の後継者として、神学校で学ぶことを教会から推薦されました。初めは、み言葉を宣べ伝える器ではないと思いましたが、主のみ旨によって主が成してくださるならば、と応えることとしました。「ここにわたしがおります、わたしをおつかわしてください」(イザヤ6・8)、のみ言葉に導かれ、「わたしは決意いたしました。また当時、九州バプテテスト神学校で学んでおられた地方連合の兄弟が、数名おられたことも励みとなりました。

神学校での学びは、インターネット配信とDVDによる学びです。年数回は講義の発表担当日に教室に出席することもあります。また、スクリーニングで受講生の皆さんと良き交わりと学びができることも感謝です。これまでに3年間本科コースで、聖書神学、歴史神学、組織神学、実践神学の学びをさせていただきました。その他、講師の先生の牧会経験から失敗談、恵みの数々の証しを聞くことも恵みとして受けることができました。

今年度から専攻科の学びを2年間、卒業の日まで怠ることなく、主の導きにより牧会者として用いられるように、さらに1歩前へ踏み出し励んでいきたいと願われます。



◎九州バプ・「ギリシア語」の授業 (20年4月6日)